



地域子育て支援だより

ぴよぴよつうしん



2025年 10月23日発行 葛西めぐみこども園



「子育てにおもちゃを」

おもちゃコンサルタント 馬目悦子 先生

赤ちゃんは産まれてくる時から自分の手で口を触れることができます。大人がおもちゃをうごかすと目で追ったり、体を動かそうとする姿が見られ、物を握ったりなめたりしゃぶったりしながら、その物を口で確かめる姿がはじまります。

お子様の成長の過程でどんなおもちゃがいいのか、親子で一緒にいろいろなおもちゃを触りながら遊んでみませんか。



0歳（出来ることが日々増える楽しい時期）

3～6か月

—ママや自分を認識し始めます—

首がすわり始め、何かをじっと見たり、手を口に入れたり足をつかんだりしてあそびます。少しずつ自分を発見していく時期でもあり、寝返りの練習も始まるので、安心して動ける場所を用意してあげましょう。

6～9ヶ月

—視野が広がってきます—

おすわりが始まると手が自由になって視野が広くなり、体を動かすあそびも増えていきます。大人の声や動きをまねる「模倣」も始まります。

9～12ヶ月

—指先をより器用につかうあそび—

ハイハイから伝い歩きへと行動範囲が広がり、自分の働きかけで音が出たり物が動いたりすることを認識し始めます。指差しや手を叩くなどコミュニケーションも活発になり「できたね」などの声をかけて喜びを共有しましょう。

4～5歳

大人と一緒に考えながら難しいあそびにチャレンジ。

1歳

繰り返しあそびは、子どもにとって大切な時間。

2～3歳

これがやりたい！を、あそびで叶える。



涼しい風も心地よく、過ごしやすい季節となりました。

「読書の秋」「実りの秋」「芸術の秋」「食欲の秋」など、さまざまな「〇の秋」という表現があります。子どもたちにとっては何の秋でしょうか。

たくさんの秋を感じながら過ごしていけるといいですね。

肌寒い日も増えてきましたが、子どもの体温は大人より高く、体を動かすととても暑くなります。寒いからといって厚着をさせると、汗で衣服が冷え、かえって体を冷やしてしまいます。この季節は薄手の長袖、または半袖に上着等で、体温の調節がしやすい服装がおすすめです。日中の寒暖差で体調を崩しやすい季節でもありますので、体調管理には気を付けていきたいですね。